

JA全農WEEKLY

4面

新設の輸出事業委員会が初会合 (輸出対策部)

4面

令和3年度
JA支援全国TV会議を開催
(経営企画部)



親子と一緒に学んだ栄養学教室「PING PONGごはんプロジェクト」(7面)

福島県本部が作成した「農福連携マニュアル」(2面)



輸出戦略の共有と事業の利用結集を促進する「輸出事業委員会」の初会合(4面)

2 ファミマの澤田副会長、細見社長が
菅野会長を表敬訪問(経営企画部)
「農福連携マニュアル」制作発表会を開催
(福島県本部)

3 みなさんに「ご炊こう」あれ!
「ご炊こうチャレンジ」の動画公開
(米穀生産集荷対策部)

株式会社Aコープ東日本が誕生
(くらし支援事業部)

5 農研機構と包括連携協定を締結
(経営企画部)

6-7 食事サポートと栄養学教室を開催
(広報・調査部)

8 JR九州の駅ビル(熊本・福岡)に
「みのる食堂」「みのりカフェ」オープン
(フードマーケット事業部)

JAタウンショップ紹介
JA鶴岡

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



Web
限定

千葉県農業のPR動画を公開
(千葉県本部)

広島県産はっさく&レモンアイス新発売
(営業開発部、全国農協食品(株))



News!



ファミリーマートの澤田副会長、細見社長が菅野会長を表敬訪問

早期の事業シナジーの実現に向け、意見交換

経営企画部



左から、伊藤忠商事・加藤修一執行役員、ファミリーマート・細見研介社長、同・澤田貴司副会長、菅野幸雄会長、山崎周二理事長、農中・岩曾聡常務、同・川田淳次常務

冒頭、菅野会長から、出資、事業連携内容の検討、業務提携契約の締結など、約1年以上に渡り真摯な姿勢で取り組んでいただいたことについて、ファミリーマートと伊藤忠商事にお礼の言

葉を述べました。そして、地域のJAをはじめ関係機関から期待の声が多く寄せられており、早期の事業シナジー（相乗効果）の実現に向け、全農として全力で取り組むことを宣言しました。

これを受け、ファミリーマートの細見社長は、店舗オーナー・現場スタッフから、今回の資本提携への期待は非常に強く、JAグループとの連携を通じて、より地域のお客さまに喜ばれる店づくりに取り組みたいとの意向が示されました。

今後、全農は、農中・ファミマ・伊藤忠との4者連携を加速化し、国内農業の拡大と農家組合員の所得向上につながる事業連携施策の積み上げを図ります。

全農と農林中央金庫が2月末にファミリーマートの株式を取得（発行済株式総数の4・90％）したことを受け、3月31日にファミリーマートの澤田貴司副会長、細見研介社長らが菅野幸雄会長を表敬訪問し、意見交換をしました。

News!



「農福連携マニュアル」制作発表会を開催

県内での農福連携の取り組み拡大を目指す

福島県本部



作成した「農福連携マニュアル」

農業の労働力不足が深刻化しています。そのような中、福島県本部としても農業労働力の確保と、障害者への就労機会の提供を両立するため、「農福連携」に取り組んでいます。今回作成したマニュアルでは、農福連携に取り組んだことがない農業者や福祉事業者を対象に、農福連携の概要から取り組みまでの流れや、県内の事例などを紹介しています。

このマニュアルは、JA担当職員や組合員の皆さまにより広くご活用いただくため、発表会で県内各JAに頒布しています。また、研修会などさまざまな場面での活用を想定し、福島県本部のホームページからデータを自由にダウンロードすることができます。ぜひ、ご活用ください。



マニュアル掲載ページはこちら

福島県本部は、県内農業の労働力不足解消を目的とする農福連携の取り組みをより一層拡大していくため、「農福連携マニュアル」を作成し、3月24日に「農福連携マニュアル」制作発表会を開きました。



みなさんに「ご炊こう」あれ！「ご炊こうチャレンジ」の動画公開

「炊くことを楽しむ」動画 各県一斉に配信

米穀生産集荷対策部



各県のCMでおなじみのタレントや、県知事も参加した動画を公開中



あなたも「ご炊こう」してみませんか？



動画はこちら

日本国内のお米の消費量は、近年減少傾向にありますが、特に今年はコロナ禍による需要減の影響を大きく受けています。そこで全農とホクレンが中心となって「ご炊こうチャレンジ」と題し、「ごはんを炊く事」そのものを楽しんでもらえるよう、動画による情報発信をすすめています。

各産地と全農本所で、それぞれが「ごはんを炊く」をテーマにした動画を制作し、3月29日からWeb上で一斉に配信を開始しました。お米のCMでおなじみのタレントや各県のキャラクターが登場するもの、鍋やフライパンで普段と一味違う炊き方を楽しむものなど、バラエティー豊かな動画が集まりました。各産地が制作した動画は、特設ホームページに集約し、公開しています。

また、この取り組みは全農の呼び掛けでJAグループ以外にも広がっています。農水省は、特設ページを開設し、大臣出演の動画を公開中です。

全農は今後も、お米の消費拡大に取り組んでいきます。

全農は国産米の消費拡大の一環として、ごはんを炊くことの楽しさを消費者に伝える「ご炊こうチャレンジ」プロジェクトを展開しています。



株式会社Aコープ東日本が誕生

地域の暮らし支援と国産農畜産物の販売強化を目指す

暮らし支援事業部

新会社全体朝礼であいさつする
織田社長（中央）



新会社は、青森県から福岡県までに営業拠点をもち、Aコープ店舗事業をはじめ、食材宅配・共同購入・葬祭・焼き肉店・農作業用品販売など、さまざまな事業を展開する生活総合会社となります。今後は、管理システムの集約などによる効率

全農クミックス(株)と(株)エーコープ関東、(株)Aコープ東北が4月1日に合併し、社名を「(株)Aコープ東日本」に改め、新たなスタートを切りました。同日、各地区のAコープ店舗など約70拠点を結び、リモートで全体朝礼を行いました。

的な運営体制の構築と各事業の強化に向けた再投資を図ります。

4月1日の全体朝礼で、新会社の織田展男代表取締役社長は、「お客さま第一主義と地域第一主義を徹底し、地産地消の拠点として、また、地域のくらしの拠点としてお客さまに末永く愛される会社を目指していく」と決意を表明しました。

(株)Aコープ東日本の概要

本店所在地	神奈川県横浜市泉区中田南3-2-38
資本金	100百万円
従業員数	約2400人
拠点数	① Aコープ店舗 59店舗 ② 焼き肉店 6店舗 ③ 葬祭会館 4会館 ④ 営業所 9拠点 ⑤ 食材宅配センター 23拠点
売上高	約520億円(令和3年度計画)

News!



新設の「輸出事業委員会」が初会合

全農グループ輸出戦略を審議・意見交換

輸出対策部

戦略の共有と事業の利用結集を促進する「輸出事業委員会」の初会合



全農は、JAグループ内における輸出戦略の共有と輸出事業の利用結集を促進する場として、会長の諮問機関である系統経済事業委員会に「輸出事業委員会」を今年度新設し、4月21日に初会合を開きました。

事業委員会の新設は1975年にこの制度ができて以来初めてとなり、初会合には14人の委員がWebなどで出席しました。

委員会では、Eコマース市場の拡大や海外実需者の変化といった海外情勢や非関税障壁など日本の農畜産物輸出の課題について共有した後、多様化が進む海外マーケットに対応するために全農グループが掲げる輸出戦略について、審議・意見交換しました。「海外のニーズを含めた詳しい情報を産地へ発信してもらいたい」「特に輸出事業の利用結集や輸出向け産地の形成について、産地のメリットなども検討したうえで、JAグループが一体となつて取り組むべきである」といった意見が出ました。

今回出された意見を踏まえ、より具体的な取り組みについて検討し、今後もJAグループ一丸となった輸出の取り組みを促進していきます。

News!



「令和3年度JA支援全国TV会議」を開催

群馬・福岡・岡山県本部、宮崎経済連が事例紹介

経営企画部

県本部などが事例報告した会議



冒頭、山崎周二理事長は「JA支援は何のためにやるのかを常に考え、JAと目線を合わせ、取り組み課題を共有し、スピード感をもって臨んでほしい」とあいさつしました。

全農は4月19日、「令和3年度JA支援全国TV会議」を開催しました。全農役員や本所各部、都府県本部のほか、県連・県JAから約270人がweb会議システムなどを通じて参加しました。

群馬県本部、福岡県本部、岡山県本部、宮崎経済連がそれぞれの取り組み事例、本所耕種資材部からJAグループ受発注業務の効率化に向けた「受発注センターシステム」の取り組みについて報告しました。

令和4年度からの次期中期計画の方針として、JA全農間の事業運営のベクトルがあった「目指したい姿」の実現、大規模法人対応の強化、システム化による事業効率化を3つの柱として打ち出しました。

それらの実現に向けて、令和3年度は今次3か年で掲げた都府県本部がある県域の全JAへの経済事業強化メニューの提案の完遂、JA経済事業の総合的な課題を受け止めJAの相談相手になるための体制強化と人材育成に取り組みます。

マーケットインを起点とした
共同の研究開発や実用化に向け



農研機構と包括連携協定を締結

全農と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）は、3月に包括連携協定を締結し、マーケットインを起点とした共同の研究開発や実用化などのための連携に向けた取り組みを始めました。
【経営企画部】

農研機構は農業・食品分野の科学技術イノベーション創出に取り組む農林水産省所管の国立研究開発法人で、国内の農業と食品産業の発展のため、基礎から応用まで幅広い分野で研究開発を行う国内最大級の研究機関です。

これまで全農と農研機構は、平成19年に締結した連携協定に基づき、農研機構の開発成果の普及を中心とした連携を推進してきましたが、今回、農畜産業でのイノベーション創出を加速するため、目的を現場ニーズの視点で「マーケットインを起点とした研究開発、研究成果の事業化と普及、わが国の食農ビジネスの競争力強化」に拡大して、連携協定を締結しました。

山崎周二理事長と桑田義文専務理事が4月16日、農研機構の久間和生理事長と松田敦郎理事を訪問し、包括連携協定に基づく連携テーマについて、意見交換しました。久間理事長からは、①食料自給率向上と食料安全保障、②農産物・食品の産業競争力強化

と輸出拡大、③生産性向上と環境保全の両立に貢献することを目標として、農研機構全体、ひいてはわが国の研究開発力向上を図ることが紹介されました。山崎理事長からは、全農の生産現場での取り組みや他社連携を含む消費・流通および輸出の取り組みなどを紹介し、今回の連携の方向性が相互の組織目標に合致することを確認しました。

今後の共同研究テーマとして、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」や内閣府主導の「ムーンショット型研究開発事業」なども視野に入れて検討し、全農の研究所（営農・技術センター、飼料畜産中央研究所、家畜衛生研究所、ET研究所）を中心に、マーケットインの視点から営業開発部、輸出対策部なども参画したオール全農体制で、農研機構との連携を進めます。

農研機構の概要

法人名	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 コミュニケーションネーム（通称）農研機構
本部所在地	茨城県つくば市
設立	2001年
事業内容	1 農業・食品産業技術に関する研究 2 生物系特定産業技術に関する基礎的研究の推進及び民間研究の支援 3 農業機械化促進のための高性能農業機械等の開発・改良及び検査・鑑定
組織	本部、11研究部門、6研究センター、5地域研究センター
沿革	1893年 農業試験場の設立が発祥 その後、各研究所が国の試験研究機関を設立 2001年 12の国立研究機関を統合・再編し、「農業技術研究機構」を設立 その後、各種独立行政法人と統合が行われ、現在に至る

包括連携協定を締結した山崎理事長（右）と農研機構の久間理事長



「ニッポンの食」でアスリートや子どもたちを応援 食事サポートと栄養学教室を開催



「ニッポンの食」を受け取った選手の皆さん

全農は、広報活動を通じて社会貢献（SR）や国産農畜産物の消費拡大に取り組んでいます。オフィシャルスポンサーを務めるカーリング日本代表選手が出場した「世界カーリング選手権（カナダ）」では、「ニッポンの食」を提供しています。また、福岡県・北九州市の卓球クラブ「石田卓球N+」に通う選手と保護者へ向けて、栄養学教室を開きました。

【広報・調査部】

「世界カーリング選手権2021」出場の

カーリング男子・女子日本代表を

「ニッポンの食」でサポート

全農は4月2～11日、カナダ・カルガリーで開かれた「世界男子カーリング選手権2021（2021 World Men's Curling Championship）」に出場したカーリング男子日本代表と、4月30日～5月9日に同国で開催中の「世界女子カーリング選手権大会2021（2021 World Women's Curling Championship）」に出場しているカーリング女子日本代表を、「ニッポンの食」でサポートしています。

2019年度から、海外ネットワークを活用した現地での「食事サポート」を本格的にスタートし、現地のレストランと協力して、輸出した日本産の



世界男子カーリング選手権2021（カナダ・カルガリー）で提供した食材を食べる左から相田晃輔選手、谷田康真選手

精米や和牛を使った和食や補食用のおむすびを提供してきました。今年は、新型コロナウイルスの影響により現地の食事サポートが困難なため、遠



4 質の高い教育を
みんなに



選手の希望をもとに今回提供した「ニッポンの食」

征前に札幌市で合宿中の選手の皆さんへ、東北6県のお米やバックご飯、みそ汁に加え、試合の合間や試合後に、補食としてのおむすびの具材に活用できる梅干しなどを贈りました。

選手の皆さんからは「全農から提供してもらった白米やみそ汁など、手軽にとれる日本食を現地に持っていく、有効に活用してコンディションを整えていきたいです」とのコメントをいただきました。

カーリング男子日本代表チームは、大会期間後半戦で4連勝したものの通算6勝7敗で、残念ながら1次リーグ突破の上位6位チームに与えられる五輪出場枠を逃しましたが、12月に予定されている最終予選で五輪出場枠の獲得に挑みます。女子代表チームは現在、カナダ・カルガリーで奮闘中です。皆さんの応援をお願いします。



親子と一緒に学んだ栄養学教室



栄養学教室で講義する管理栄養士・越野彩職員

「石田卓球N+」は、石田眞行氏と千栄子氏が運営する卓球クラブで、これまで幾多の卓球日本代表選手を輩出しています。現在、全国各地から集まった5〜12歳の19人の選手が所属し、日々卓球の腕を磨いています。全農は3月21日、クラブに通う選手とその保護者を対象に栄養学教室「PING PONG（ピンポン）ごはんプロジェクト」を開きました。

同クラブは「食」を大切にしている指

「石田卓球N+」に通う選手たちと保護者を対象に
栄養学教室「PING PONG（ピンポン）
ごはんプロジェクト」を開催



導も行っており、日頃から選手たちが練習の合間に食べる補食におむすびを持参したり、土日の練習では昼食に地元産の野菜をたっぷり使った汁物を提供しています。全農はその指導方針に共感し、未来を担う子どもたちの夢を「ニッポンの食」を通じて応援することを目的に、このプロジェクトを始めました。プロジェクト名には、「卓球（table tennis）」にかけて、「将来、子どもたちが自分自身で考えて、必要な正しい食事を選択できるようにしてほしい」という思いを込めています。

栄養学教室では、管理栄養士の資格を持つ全農職員が15人の選手と12人の保護者を対象に、成長期の子どものに必要な栄養や運動時の食事の摂取方法、国産農畜産物を使用したメニューやレシピ紹介などの講義を行いました。参加した子どもから「歯を強くするにはどのようなものを食べればいいのか」、保護者から「果汁ジュースの二日に飲んでもいい目安はどれくらいですか」といった質問



参加者に贈った全農グループの商品

問もあり、食に関する関心の高さがうかがえました。

クラブのコーチである松井清美さんも「食事の栄養バランスについては、普段から子どもたちに指導していますが、親子と一緒に学べる場は貴重で、お家で食事について話をするきっかけになるとともに、この取り組みを継続していくことで、子どもたちにも食事の大切さを意識付けできると思います」と食育の重要性について語りました。

これまでも全農は親子向けの食育に力を入れてきましたが、引き続き、全農はこうした教室を通じて、「食」の大切さを伝えるとともに、「ニッポンの食」を通じて子どもたちの夢や成長を応援していきます。



JR九州の駅ビル商業施設内に 「みのる食堂アミュプラザくまもと店」「みのりカフェアミュプラザ博多店」オープン

全農は4月下旬、十分な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえで、みのりみのるプロジェクトの直営店舗「みのる食堂アミュプラザくまもと店」と「みのりカフェアミュプラザ博多店」をJR九州駅ビル商業施設内にオープンしました。

【フードマーケット事業部】

4月23日にオープンした「みのる食堂アミュプラザくまもと店」は、熊本県産米「森のくまさん」の羽釜炊きご飯やくまもと黒毛和牛「和王」など、厳選した県産食材を使用した定食メニューや、農産物直売所直送の「お野菜ビュッフェ」が自慢です。オープン記念として5月末までの期間、定食をご注文のお客さまに「お野菜ビュッフェ」を半額(110円、税込み)で提供します。

4月27日にオープンした「みのりカフェアミュプラザ博多店」は、JA糸島産直市場「伊都菜彩」から直送される野菜をふんだんに使用した「スープカレー」をはじめ、「博多あまおう」など福岡県の旬の果物を使ったオリジナルスイーツ「くだら(果物どら焼き)」や「フレッシュジュース」を、店内に加えテイクアウトでもご利用いただけます。

熊本・博多駅にお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



黒毛和牛「和王」の溶岩焼ステーキ膳
(みのる食堂アミュプラザくまもと店)



「具たくさん野菜のスープカレー」
(みのりカフェアミュプラザ博多店)



季節の果物と特製クリームの「季節のくだら」
(みのりカフェアミュプラザ博多店)



4月23日 OPEN!

みのる食堂アミュプラザくまもと店

住所 ● 熊本県熊本市西区春日町3丁目15番26号
アミュプラザくまもと6階
電話番号 ● 096-288-0154



4月27日 OPEN!

みのりカフェアミュプラザ博多店

住所 ● 福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1
アミュプラザ博多地下1階
電話番号 ● 092-710-4274

みのりみのるプロジェクトの
HPはこちら



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JA鶴岡

山形県鶴岡市にある南西部霊峰「金峯山」の麓に位置する湯田川温泉。この地で収穫される孟宗は、えぐみが少なく、絶妙な軟らかさと歯応えが魅力のタケノコです。地元鶴岡でも入手困難とされ、直売店には早朝から孟宗を買い求める人で長蛇の列ができるほどのにぎわいをみせます。

庄内を代表する郷土料理「孟宗汁」や、春の香りがかぐわしいあえ物などシンプルな味付けでも、じわ〜っと口の中に広がる孟宗の甘みを楽しめます。

※5月中旬から順次発送予定です



朝掘り! 湯田川産孟宗
約3Kg.....4600円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com